

(研究用)

当院は下記の研究を実施しています

記

課題名 切迫流・早産における子宮頸管短縮と分娩転帰：

多施設共同後向きコホート研究一

研究の目的・意義

妊娠早期の早産は新生児の生命予後及び長期予後の最大のリスク因子です。早産を発生させるリスク因子・交絡因子の解明が必要となります。症状の有無に関わらず、切迫流・早産の妊娠予後に子宮頸管長短縮が強く関与していますが、現在の診断基準では、頸管長短縮妊婦における子宮頸管長の閾値がなく、他因子との交互作用が考慮されていません。本研究結果は、切迫早産の診断基準を見直す上で、有用な基礎資料になることが期待されます。

研究の方法

当センターにて、妊娠 16 週 0 日～妊娠 34 週 6 日までに、切迫流・早産あるいは子宮頸管無力症の診断で入院した妊婦さんを対象とし、入院中の経過を診療カルテから後方視的に解析し、妊娠予後を明らかにし、影響する諸因子の検討を行います。新たにお問い合わせすることはありません。

➤ 調査項目

妊婦さんの性別、年齢、入院年月日、分娩予定日、子宮頸管長 (mm)、子宮頸管長の測定方法、funneling の有無、sludge の有無、症状の有無、など

※ 妊婦さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報とは調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

研究実施機関

国立成育医療研究センター

埼玉医科大学、自治医科大学、順天堂大学、順天堂大学医学部附属順天堂浦安、昭和大学、昭和大学江東豊洲病院、帝京大学、東京医科大学、東京慈恵会医科大学他

(研究用)

国立成育医療研究センター（HPにて概要を掲載 <http://www.ncchd.go.jp/>）

※ ご自身が該当すると思われる方で、解析に加わることを拒否されたい場合は下記にご連絡ください。

連絡先

研究責任者：鈴木 朋

TEL :03-5494-7120（内 7538）